



令和元年 6月発行
第 28号

「あじさい」

太陽の家の幼児 作

変わりゆく中で、変えられぬもの

加古 明子

朴（ホウ）の白花がふっくらと咲いている。道路用地から外れた位置で、風向や陽当りが変わっても今はキャンパスを見守る大樹。26m切り下げた所に幅44mの6車線道路が開通したら、排気ガスや吹き上げる風・植生の影響がどのようになるか、なかなか読めない。が、オ国の方針転換に伴い、建物の増改築計画を近々に進める段階にきている。

この山辺で、昭和40年以来620余名の近い子どもたちの生活を多くの職員達が支えてきた。真に大切なことは、日常生活の中にある。幼い頃から日常生活の基礎を大切に育て、温かくひろやかな人間性に触れ、互いを尊ぶ経験を積みあげる養育実践に心してきた。

この間、世間では60年代、消費は美德・中流意識90%の繁栄でありながら、子どもの危機（「児童白書」）が叫ばれた。70年代には家庭内・校内暴力が激化し、“じっとガマンの子”“CMのように潜み、80年代“戸惑う育児”“子ども拒否症”とそれぞれが痛んだ。そのキズは複雑で複合的に深化しつつ、やがてカムイ族（カッカ！ムカムカ！イライラ！）、プツン、キレル、シカト、イジメなどなど。各国際比較調査では、“しつけをしない日本人”との指摘が続いた。90年代、悩みながらも即効性ある教導など生まれず、“良い子の暴発”続出。「子どもの虐待対応手引き」からやがて『児童虐待の防止等に関する法律』、『DV防止法』へ。さらに21世紀はNY同時多発テロ、オウム事件に始まり、自然災害が地球規模で各所に起こり、次々起こる戦争の脅威は続いている。その時々のおトナ達はなにを選び・選び損ね、子どもたちはなにを伝えられつつ、代々のおトナ・親になってきたのだろうか？

どの社会にも、みんなで暮らす文化がある。規範やルール、習慣・禁忌など生きる群には学ぶべきことが多々ある。昭和2年（1927年）賀川豊彦（社会普及家）は、子どもの権利9つをすでに説いている。{生きる・喰らう・眠る・遊ぶ・指導して貰う・教育を受ける・虐待されない・親を選ぶ・人格として待遇を受ける}権利。92年を経て、なにが果たされただろうか？今、哀切たる事件が続出するのは？生きて来た一人として責任を感じず。

“IT化 生きる哲学 追いつかず”、急激な変化の中では、人はなぜ、どのように生きるか？人間性の芯たる価値観をどのように身につけ得るか、これこそが大事と考える。「スマホ持つ君（13歳）へママとの18の約束」にはノルト家（米）の家庭哲学がしっかり示されている。それを継ぐ学びは子どもの権利であり、親の責任であると読み取れる。共感する親達が多出したのも頷ける。AI育てを面白く学ぶ時代、考える自分育てが必定。

子ども時代に安易な目こぼしは迷惑であり、すべき努力・我慢に励ましを受けられず、応援されず、葛藤なしではお互い育ち損なう。生きる誠意を、まだまだ尽くしたい。

（6月9日任期満了）

かわりゆく今—八栄寮の景観—

児童養護施設こどものうち八栄寮 施設長 大村 正樹

—昨年春のことである。八栄寮の玄関に一羽の雉が現れた。数日後、今度はハクビシンが現れた。会議中にタヌキが一匹庭を歩いて思わず声をあげた。

昨年夏から秋にかけてのことである。八栄寮では例年以上に砂埃が舞った。子ども達が生活する家の中にまで入り、床が砂でざらついた。急遽、八栄寮を囲むフェンスに防砂ネット取り付けした。

秋には、10年に一度といわれる強い台風が立て続けにやってきた。屋根の一部が吹き飛んだ。敷地内にある桜の木などが何本か倒れた。幸い事故はなく、子ども達への生活に影響はなかった。

このようなことは今までになかったことである。八栄寮を取り囲んでいる自然環境に変化があったことが原因ではないか、と私は考えている。

—昨年春から、八栄寮の敷地の南側では、高尾から日野にまで通じる八王子南バイパスなどの工事が始まった。八栄寮の周辺の山林は伐採され、土地の造成が行われている。動物たちは住処を失い、八栄寮に迷いこんできたのだ。また、防風林の役割をはたしていた八栄寮の周りの木々がなくなってしまったことが、屋根の一部が飛ぶなどの出来事に繋がっていると思う。

今、八栄寮を取り囲む景観は大きく変わろうとしている。

そのことは子ども達の生活にも影響が出てくるだろう。特に防犯について心配をしている。今までは自然に囲まれていることで、部外者の目にさらされることがなかった。部外者の侵入を未然に防いでいた。しかし、木が切り倒されたために、周りから八栄寮の建物が丸見えになってしまった（余談だが、遠方から見える八栄寮の建物は小さなお城みたいでおしゃれだ）。そのため、昨年冬、敷地の周りに防犯カメラを設置した。生活の場所に防犯カメラを設置することには違和感を覚えるが、子ども達の命には代えられない。

また、別の心配もしている。八栄寮では夏になるとカブトムシやクワガタがたくさん捕れる。子ども達の楽しみの一つだ。たくさんの木が切り倒されたことで、今年の夏は捕ることができるだろうか？

今回の「えん」では、八栄寮を取り囲む景観がかわりつつあることを報告した。次回の「えん」ではカブトムシは捕まえることができたかどうか、そして、景観が変化したこととは別の「かわりゆく今」をお伝えしたいと思う。



八栄寮の入口（門）
急坂に咲いているツツジ



むき出しになった子どもの家
2019.4.19 撮影者：内山大樹

20年ぶりの再会

こどものうち八栄寮 主任 内藤勇希
寒さが厳しい 2 月の夜、「20 年以上勤めている職員の方はいらっしゃいますか？」と少し元気のない声でしたが、こどものうち八栄寮に連絡が入りました。電話の主は、20 年以上前に八栄寮を退所した M 君。話しを聞くと、今大病を患ってしまい、色々あったが自分の人生を振り返ってみたところ八栄寮のことを思い出し、ふと連絡を取りたくなったとのこと。彼は私が入職一年目に初めて受け入れ、担当になったこどもでした。彼は 2 年弱八栄寮で生活し親元に戻りましたが、その後の生活は苦労も多かったと人づてに耳には入っていました。転々としていた彼とは今と違い、携帯電話や SNS 等簡単に連絡が取れる術もなく、私自身も頭の片隅に気になりながらも彼からの連絡を待つしかなく 20 年経ちました。

後日、少し離れた病院にお見舞いに行きました。彼は、「八栄寮で過ごしたたった 2 年弱の短い期間であったが、その期間が生きてきた 40 の中で一番人と接したり向き合ったり目をかけてもらったりと人として充実した時期と思えて。他の病室を覗くことがあるが、皆、家族や親族、友人等に囲まれ、自分にも家族はいるが、どこか孤独な人生に思えて。悪いことばかりし、迷惑かけ怒られる日々だったが、真剣に付き合ってくれて笑いあったり叱ってくれたあの頃が懐かしく思えてね。」とすっかりおじさんになった彼だが、照れてはにかむ笑顔は以前の変わらない彼でした。野球大会のこと、キャンプに行ったこと、当時のことを鮮明に覚えており、暫し昔話で盛り上がるが、「先生（当時そのような呼び方である）も忙しいし遅くなっちゃうと悪いから。」と気遣う言葉が聞かれました。帰り際ありがたうとお礼を述べた彼が、「先生、何か俺に言い忘れたことはない？」と声をかけてきました。振り返り、たくさん話せて嬉しかったこと伝えると、「ご迷惑ばかりかけてすみません。ありがとうございます。」と真っ直ぐ目を見て振り絞った声で送り出してくれました。

現在、児童福祉法の大きな改正後、「新しい社会的養育ビジョン」が発表され、また、次年度には特別区児童相談所の設置を控え、児童養護施設を取り巻く社会情勢は大きく変化していきます。また、若い職員のみならず、悩み対応に苦慮することが日々私自身もあります。こどもはちゃんと職員の姿を見て、何気ない言動もしっかり覚えていきます。経験を重ね忙しさを言い訳にし、どこか辻褄を合わせてしまっていないか、何も分からず失敗も多かったが、純粋にこどもの最善の利益、幸せを第一に考え向き合っていたあの頃を振り返りながら、2 年弱の短い時間、私はあの時彼に何を伝えられたのか、良い出会いと感じてくれたのか、そんなことを考えながら、ハンドルを握り帰路につきました。

時代が変わっても変わらず伝えていきたいこと

こどものうち八栄寮 保育士 鈴木奈津実
入職した平成 18 年、先輩職員から「子どもたちがあたりまえの生活をあたりまえに送れるように」ということを教えてもらいました。元気に遊んでどろんこになった洋服が洗濯され、畳まれ、気持ちよく着られること。おいしい食事を囲んでの楽しい団欒。愛され、認められ、良いこと、間違っていることを教わりながら育つこと。ただ、そのあたりまえは職員が何もしなければ作り出されないこと。子どもたちを思う職員の心がないと出来ないこと。

そして令和元年。10 年前は珍しかったスマートフォンが今では一般的。それぞれが感じるあたりまえがどんどん変わっていきました。あたりまえの生活ってなんだろう？時代に合わせて変わることは大事だよ？でも、変わってしまうことで先輩たちが大切にしてきた良さがなくなってしまうのではないかな？そんなことを思っている中、幼稚園の先生がふと「こどものうちの子はいつもハンカチを持ってきていますね」と仰っている声が聞こえてきました。以前にも、小学校の先生から同じお話を頂いたことがありました。「ハンカチを持っていく」ということだけですが、それまでには、洗濯をしてアイロンをかける、名前が消えていないか確認する、ほつれていないか確認する、ハンカチをポケット入れたのかを確認する、しわくちゃなハンカチに笑ったり、宝物（木の実や貝殻）箱になっているハンカチに驚いたり。「ハンカチを持っていく」ということには、子どもたちへの思いがあったこと、これが先輩たちが大切にしてきた養育なんだということに改めて気がつき、「時代が変わっても変わらず伝えていきたいこと」だと感じました。

あたりまえが変化していく中で後輩たちの新しい感覚に「えっ!？」と驚くこと、自分が伝えている事はあっているのか？と迷うこと、「あー、もー、わかってよ!!」と思うこと、伝え方を学ばないといけないなと思うことがたくさんあります。でも、それを乗り越えて新しい時代に柔軟に変化しながらも先輩たちから教えてもらった心を引継ぎ後輩たちに伝えていけたらと思っています。

インタビュー

早川憲治職員

Q. 入職したころの様子とは？

A. 1987年（昭和62年）10月より入職しました。理事長である伊藤登美恵氏との出会いから、10年後に八栄寮へ。ちょうど大舎の終わりの頃で、小舎へ移行する時期でした。経営陣が中心となって職員も子どもも一丸となって生活をしていました。始めは戦争孤児の子どものためだったが、この頃は高度経済成長に伴い都市化が進み、養育困難・非行・貧困で入所してくる子どもが多くなっていった。2000年前後になり、事務・福祉会計のIT化、施設行事の見直しなどが推進されていきました。

Q. 環境整備の視点から変わったことは？

A. 御徒町（上野寮）から富里村（七栄寮）に移転し、当時は自給自足の生活で畑をやったり豚、牛等を飼育していたそうです。更に1965年に八王子へ移り、八栄寮開設。現在小舎が建っている場所やグラウンドの平地は職員と子ども達が一緒になって造成。急坂に咲いているツツジや木々も七栄から持って来たものもあり、卒業生と共に移植したと聞いています。

代々、環境整備に努め、その心を受け継いで私も今頑張っています。

Q. 昔も今も変わらないものとは？

A. 職員の想いや、悩みすらも子どもたちを支える環境の一つです。同胞援護の気持ちを忘れず、子どもや親御さんへの想い、仕事への熱意を持っていて欲しいです。常に八栄寮の未来のために、児童養護施設として生き残っていくために、いま何が出来るのか職員みんな考えていく必要があるのではないかと思います。

木部敏枝職員

Q. 入職したころの様子とは？

A. 1988年（昭和63年）8月より入職しました。調理員として勤めていた下谷桂子さんの紹介で八栄寮へ。当時、大舎だったため入所児全員分の食事を作っていました。朝5時から出勤し、断続勤務して午後にもまた出勤するという勤務でした。

Q. 入職時と変わったことは？

A. やはり、以前は児童養護施設と言うと偏見があったかもしれないが、現在は地域にもだいぶ受け入れられてきたようにも思います。平成5年に前施設長・川上豊氏が就任し、勤務のやり方も整ったように思います。前施設長は職員一人一人との会話を大切してくれており、向こうから話しかけてくれるため話しやすい環境でした。職員同士の連携も取れ、ちょっとした悩みを聞いてくれる人もいました。

Q. 昔も今も変わらないものとは？

A. 職場だけど“お家”と言う意識を忘れてはいけない。小舎の中をきれいにすることはもちろんだが、各家の周りの手入れや草取りなどにも気を配ることも大切ではないか。自宅の家の前が汚れていたら、庭に草が生えていたら、男性・女性関係なくきれいにしようとするはず。その気持ちをもって、職員一人一人が八栄寮の環境を整えていく気持ちが大事ではないか。

<感想>

30年以上、八栄寮を支えてくださっているお二人から話しを伺い、『初心忘るべからず』とはまさにこの事だなと思いました。私自身、仕事や家庭・育児の毎日に追われ、入職した頃の謙虚な姿勢や情熱を忘れてしまいそうになることもしばしば。入職した当時とは立場や状況が変化し、悩んだり困ったりしている中で『職員の想いや、悩みも環境の一つ』という言葉に、なんだか受け止めてもらえたような、こんな私でも子どもたちの生きていくための肥やしになれるのなら、もうひと踏ん張り頑張ろうと思えました。今回、このような素敵な機会をいただき、本当に感謝しています。ありがとうございました。

インタビュー 加藤早織

こどもの日フェスティバル

八栄寮の中学生・高校生が中心になってフェスティバルを盛り上げました！
事前準備では買出しや看板作り、当日は模擬店に入って売り子をしました。



プライバシー保護のため、写真は加工しています。

変わるものと変わらないもの

リフレここのえ

施設長 横井 義広

リフレここのえは、時代と共にここ数年で担う役割が少しずつ変わってきました。それは、施設の機能拡充を目指して、平成 27 年に無料塾オリーブ八王子を開講させたことです。現在は 42 人の子ども達が通ってきています。また、それをベースに平成 29 年には法人事業としてオリーブみらいが開講しました。今年度は、緊急一時保護事業を利用して、産前・産後母子支援を始めます。これは、支援が必要な妊婦さんを受け入れ、出産前後約 3 ヶ月間を支える事業です。リフレとの出会いと出産を機に母と子の未来のことを一緒に考えていけたらと思います。さらに、もう 5 年くらいになるでしょうか。リフレスーパーと称して、フードバンクからの寄附品をリフレを退所した 25 世帯に配布しています。今後、地域の方にも配布できるような仕組みが出来たらができたらいいなと思っています。

このように施設機能を進化させてきていますが、変わらないこともあります。それは、リフレはいつでも実家であるということ。退所したお母さんがリフレに来た時に、リフレの職員はいつも「お帰りなさい」と言って迎え入れます。私たちは、「リフレに電話すると何とかなる」とお母さんが思ってもらえるとうれしいと思っています。暴力被害に遭った女性の多くは、気軽に話ができる身内がないことがあります。なぜなら、夫婦関係が不調になった時にお母さんの実家ともうまくいかなることがあるからです。リフレの職員は本当の身内にはなれません。けれども、リフレでの 2 年間の生活の中で信頼関係ができると、お母さんからいろいろ相談を受けます。お金のこと、子育てのこと、うまくいかない調停や裁判。最初はトゲトゲしい言葉の連続だったお母さんの言葉が、少しずつ納得したり、前向きになったり、お母さんの心の氷が少しとけていく様子があります。電話をかけてくるアフターケアのお母さんも少し話していると電話越しに落ち着いてくるのがわかります。

社会福祉法人改革が叫ばれている昨今ですが、日々の施設機能は進化させながらも、お母さんへの支援の考え方は不変です。

こどものうち八栄寮	リフレここのえ	八王子市子ども家庭サービス事業利用者数
幼児 10名 小学生 19名	乳幼児 17名	平成 30年 12月～令和元年 5月末
中学生 10名 高校生 11名	小学生 9名	ショートステイ 322名
専門 1名	中高生 1名	トワイライトステイ 45名
【計 51名】	【計 16世帯 43名】	合計 367名

母子寮?母子支援施設?これからは?

リフレここのえ 主任 田中 十代子

ある日の午後、利用者さんから離婚できたことの報告に大喜びをする職員。そんな光景に実習生が「離婚ってそんなに嬉しいんですか・・・?」と。こんな光景が母子寮の時にあった?

考えてみれば、かつて施設が母子寮と呼ばれていた頃、「離婚後の生活困窮」「借金の返済」「養育困難」「生活の立て直し」等の理由で措置による入所であった。平成 10 年 4 月、母子生活支援施設と名称が変わって、措置から契約へと変わり、その対応も指導から支援へと変わる中で職員の意識改革が必要だったと想像する。名称の変更ではあったがその内容には大きな意義があったと言える。平成 13 年 DV 法ができたことで暴力被害からの安全な避難場所として、離婚や離婚に伴う法的な支援等の場としての役割を担う事になり、ここでもまた、支援内容や職員の意識改革が必要とされることになった。

施設の役割がその時代を映して変化をし、職員も変化を求められる。今度はどんな役割が待っているのだろうか。ただ、母と子に寄り添い、見守り、一緒に困難に立ち向かう姿勢はどんな時でも変わらず続いていく事は確信を持てる。

次の時代へ

リフレここのえ 母子支援員 流石 理沙

年度が変わって、子ども達は初めての保育園へ、お母さんは新しい職場へ、そしてリフレには新しい職員が来てくれました。年度末はリフレの保育室がとてにぎやかで楽しいのですが、新年度に入ると、皆保育園へ入園します。子ども達の巣立ちは喜ばしいことですが、寂しさも同時に感じています。

リフレ保育では毎日お散歩へ行っています。「赤色の車だね。」「お花がきれいだね。」と他愛もない話を楽しみながら公園へ向かいます。保育の中では、つかまり立ちができた!お話しが出来るようになった!と日々子どもの小さな成長をとて嬉しく感じています。子どもの笑顔が、存在が、私たち職員のエネルギーになっています。また、お野菜が苦手な子どもが野菜を完食し「ぜんぶ食べた～」と空っぽのお皿を見せてくれた時には、私たち職員は子どもをたくさん褒め、一緒に喜びます。いけない事をしてしまった時は「やってはいけない」と厳しく伝えています。その繰り返しで子ども達は善悪を学び、成長していくのだと思います。

私たちは子ども達に溢れる“想い”を持って、子ども達の未来が輝くよう、お母さんと一緒に大切に大切に育てています。大切にされた経験から、自分を大事に出来る人になり、大切な誰かに繋げていくことができる、そんな人になって欲しいと願っています。リフレで育った子どもたちが次の時代の光になるよう、これからも“想い”を伝え続けていきます。



安心できる場所

リフレここのえ 少年指導員 佐藤 直樹

私が小学生の時には持っていなかったスマートフォン。今の子どもたちは生活の中に当たり前にあります。コミュニケーションの手段や、情報を得るツールとして必要不可欠です。私が過ごした子ども時代と、今の子どもたちが過ごしているこの時代は大きく変化しています。

その中で学童保育はどうあるべきなのか。スマートフォンを開いてSNSやニュースを見れば、誰かの揚げ足取りや粗探しばかり。今私たちが生きる時代は大人や子ども、誰もが傷つきやすく、「安心」を感じにくい世の中です。そんな世の中だからこそ学童保育は子どもたちにとって、いつまでも変わらずに安心できる居場所でありたい。ここに来ればきちんと褒めてくれる、叱ってくれる大人がいる。周りの子を見ても同学年の子は少なく、頼れるお兄さんお姉さんがいたり、面倒見がいがある弟や妹がいる。家族ではないけれど、安心して過ごせる居場所。

退所した子が大人になっても、これから新しく入所する子にとっても、変わらず安心できる居場所であり続けたいと思います。いつかここにいたことを思い出して、その子自身が周りの人に安心を与えられる人になることを願っています。

行事報告

ボウリング招待

2月高尾スターレーンに行きました。上級生が下級生にコツを教えている姿が、とても印象的でした。招待して下さったトラック協会の方々、ありがとうございました。こどものうち八栄寮も参加しました♪

リフレここのえ 少年指導員 加部 正和



学童遠足

3月に藤子・F・不二夫ミュージアムに行きました。子ども達はドラえもののひみつ道具に興味を持ち、作品の世界観を楽しんでいました。

資金収支決算書 平成30年度 社会福祉法人同胞援護婦人連盟

単位:千円

勘定科目		本部	こどものうち 八栄寮	リフレこのえ	子ども家庭 サービス事業	合計	
事業活動による収支	収入	児童福祉事業収入	2,546	348,665	120,485	10,681	482,377
		経常経費寄附金収入	2,998	1,092	30	0	4,119
		受取利息配当金収入	143	37	35	0	215
		その他の収入	2,234	9,089	18	0	11,341
	支出	人件費支出	4,959	224,305	72,775	8,219	310,257
		事業費支出	1,702	59,966	7,502	1,018	70,188
		事務費支出	4,781	28,108	16,841	1,247	50,977
		その他の支出	1	3,104	0	0	3,105
等に設置 収支による 整備	収入	施設整備等補助金収入	0	1,350	0	0	1,350
	支出	固定資産取得支出	103	11,593	1,034	0	12,730
その他の活動による 収支	収入	積立資産取崩収入	0	68,395	316	0	68,711
		拠点区分間繰入金収入	4,315	0	0	0	4,315
	支出	積立資産支出	0	95,446	20,855	0	116,301
		拠点区分間繰入金支出	0	2,157	2,157	0	4,315
当期資金収支差額合計		690	3,949	-280	197	4,556	
前期末支払資金残高		192,811	99,831	33,298	812	326,752	
当期末支払資金残高		193,501	103,780	33,017	1,009	331,307	

※端数四捨五入

～子どもたちのしあわせのために～

ありがとうございます。

- 郵便振替 : 社会福祉法人同胞援護婦人連盟 00110-1-499359
- ゆうちょ銀行 : 社会福祉法人同胞援護婦人連盟 019店 当座 0499359
 - ・折り返し当法人からの領収書をお送りします。
 - ・社会福祉法人に対するご寄附は確定申告で所得控除の対象になります。
 - ・住民税控除についてはお住まいの区市町村へお問い合わせください。

社会福祉法人同胞援護婦人連盟

児童養護施設 こどものうち八栄寮
母子生活支援施設 リフレこのえ
八王子市 子ども家庭サービス事業

〒193-0944 東京都八王子市館町 2232-1
Tel:042-661-5891 Fax:042-667-0006
<http://www.yasakaryou.or.jp>

編集後記

今号のテーマは、「変わりゆく今」です。
今年から元号が平成から令和変わり、支援や環境などが変わりつつあります。その中でも受け継ぎたい大切なことは、日々の実践を通して次の世代へバトンを渡していきたいです。

【広報誌担当 加藤早織 神原史歩】

ご意見・ご感想・ご質問を法人宛のお手紙または FAX でぜひお寄せ下さい。お待ちしております。

株式会社小笠原（八王子市子安町 2-12-1）様の印刷協力に感謝申し上げます。